

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル (津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまりき解消	①学力向上担当者 ②各担任 ③各担任	①全国・県学力調査の問題分析から見える授業改善についての研修を行い、改善を目指す。 ②落ち着いて学習できる習慣を付けるとともに、見通しをもって学習に臨む手立てを示す。 ③書く力を向上させるために、授業や朝学習、宿題などで書く活動に重点を入れて取り組む。	①夏休み中 ②2学期末 ③年間を通じて	①全職員でつまづき傾向と対策を考え分析し、日々の授業にどのように生かすか、学校で共通して取り組む。 ②授業のチャイムスタートを徹底する。また、授業の流れを示す。 ③週1回以上、日記や作文(短作文や条件付き作文)を書く。	①学期末まとめテスト(国・算)の平均点が80点以上。(全学年) ②児童アンケートで、授業では学習のきまりを守っている児童が80%以上。 ③条件に合わせた文章が書ける児童が80%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	①各担任 ②各担任	①情報モラルの指導やスマートフォンやメールの使い方についての指導 ②自主学習の質の向上。	①3学期末までに ②3学期末までに	①リーフレットを使って児童に指導し、個人懇談で保護者にも呼びかける。 ②家庭学習の手引きを基に学級懇談や個人懇談などで呼びかける。自主学習として「漢字博士への道」も継続して取り組む。工夫した自主学習ノートを学級で紹介したり、廊下に掲示したりする。	①全学年で指導する。 ②児童アンケートで、宿題以外の勉強をしている児童が80%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題



調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(6年) ○国語・算数とも正答率は県平均をやや下回っている。 ○国語では、選択肢がある問いや漢字に高い正答率を示しているが、接続詞を用いて2文に分ける問題、条件付き記述問題に弱さがある。 ○算数も、国語と同じように選択肢がある問いに高い正答率を示しているが、求め方を言葉や式を使って答える問題に弱さがある。 県(3～5年) ○5年は国語・算数とも正答率は県平均を上回っている。 ○4年は国語・算数とも正答率は県平均を下回っている。 ○3年は国語・算数とも正答率は県平均を上回っている。 ○国語は条件付きの記述問題に課題がある。算数は求め方を言葉や式を使って記述することに課題がある。	【学習状況調査の結果】 ○家庭での平日の学習時間は1時間以上が91%であり、県平均72.1%よりかなり高い。 ○平日にゲームをする時間は、2時間以上が37.6%であり、県平均33.3%より高い。 ○平日メールやインターネットをする時間は、2時間以上が18.8%であり、県平均13.9%より高い。 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒はどちらかといえば当てはまると100%となり、県の82.5に比べかなり高い。 ○テレビやゲームをする時間を家の人と決めている人は68.8%であり、県平均の70.2%ほど同じである。 ○1日の読書時間は30分以上が45.5%で、県の40.3%を上回っている。



成 果	課 題
○「落ち着いた学習環境を整え、児童理解に努める」「一人ひとりの達成感、満足感を大切に」を全職員で共通理解し、実践に努めた。「自分にはよいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目の肯定的な回答率が全国と比較してもかなり高かった。 ○家庭学習の時間や読書時間も全国平均を上回っている。これは、本年度2年目となる自主学習としての「漢字博士への道」の取り組みや、自主学習のお手本ノートの掲示、音読の宿題、図書室の本の持ち帰りなどが成果につながっていると考えられる。	○国語は条件付きの記述問題や接続詞を用いて2文に分ける問題に課題がある。 ○算数は求め方を言葉や式を使って答える問題に弱さがある。 ○国語、算数ともに活用型の問題を苦手としている。また、長文を読むこと自体に苦しさがある。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
話す力をつけさせる	2学期末	全児童 児童アンケートで、自分の考えを進んで発表している児童が70%以上。	・学年に応じた条件を設定して、スピーチに取り組む。(テーマ・時間・〇文以上など) ・話を聞いて質問をしたり意見を言ったりする。					
書く力をつけさせる	3学期末	全児童 条件に合った文章を書くことができる児童が70%以上。	・週1回以上、日記や作文(短作文や条件付き作文)を書く。 ・学年に応じたテーマや条件を設定して文章を書く。 ・文章表記の仕方を確認する。					
家庭学習の充実	3学期末	全児童 学期末テスト(国・算)の平均点が80点以上。(全学年)	・問題データベース等の補充問題プリントを活用する。 ・前年度の復習も含め苦手な問題に繰り返し取り組ませる。 ・自主学習として「漢字博士への道」も継続して取り組む。 ・工夫した自主学習ノートを学級で紹介したり、廊下に掲示したりする。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○中道中ブロック「当たり前」の徹底(チャイムスタートの徹底、規律ある授業づくり、落ち着いて学習できる教室環境づくりに取り組む) ○中学校区で授業公開並びに児童生徒の情報交換を行い、今後の指導に生かす。 ○中学校定期テスト期間中にテレビやゲーム・スマホ等の使用期限の取り組み(ノーマディア習慣)を行う。	○家庭学習の手引きを基に学級懇談や個人懇談などで呼びかける。 ○高倉チャレンジカード(親子で触れ合う時間・ノーマディア・家庭学習)の取り組みを家庭と連携して学期ごとに実施する。 ○「主体的な学習習慣について考える」をテーマに、PTA及び地区の育てる会と共催して教育講演会を行う。その会に、保育園の保護者にも参加を呼びかける。